

2017年12月31日

## 福音書からのメッセージ

その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。

(ヨハネによる福音書1章9節)

今日の聖書には、「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった」という言葉がありました。イエス様がこの地に来られた出来事は、すべての人にとって光となるはずでした。しかし人々は光を拒絶し、暗闇から出ようとはしませんでした。

そもそも人は、光を求めているのでしょうか。本当の光で照らされたいと願っているのでしょうか。もしかすると多くの方は、光など必要ないと思っているのかもしれませんが。その理由の一つは、怖いからなのかもしれません。光に照らされると、すべてが明るみに出されます。つまり隠していた醜い部分もすべて、さらけ出されるのです。わたしたちは何とかごまかそうとして着飾り、化粧をし、偽物の光で辺りを明るくします。しかしまことの光に向かって、顔を上げることができないのです。

なぜ神さまはイエス様をわたしたちの元に遣わしたのでしょうか。どうして光を怖がり、自分勝手に歩く人間のために、そんなことをしなければならなかったのでしょうか。それはわたしたちが、神さまの大切な子どもだからです。神さまはわたしたちを決して見捨てず、正しい方へと導こうとされているのです。

わたしたちは自分のことを、成熟した大人だと思っているかもしれませんが。しかしそうではないのです。神さまの言うことを聞かず、その言葉も理解できず、神さまに見つかるまいと暗闇に隠れ、光から顔を背ける子どもなのです。

わたしたちがそのような状態のままにいることは、神さまのみ旨ではありませんでした。神さまに背を向けるのではなく、



わたしたちが光に顔を向けるようになってほしい。その思いで神

さまは、イエス様をわたしたちの元に遣わされたのです。

暗がりや光を恐れ、怖がっている人のところに、自分のところになんか光は届かないと思っている人のところに、偽物の光に包まれ、本物の光に気づかない人のために、そこにイエス様は来られました。それがイエス様のご降誕なのです。

本当の光に包まれ、神さまの前にすべてがさらけ出されることは、とても恐ろしいことです。でも、考えてみてください。わたしたちは神さまの大切な子どもなのです。欠点があってもいいのです。醜い部分があったっていい。人に言えないようなこともすべて、神さまはご存じです。いまさら隠したところで何になるのでしょうか。

わたしたちはそのままでもいいのです。そのまま受け入れられるのです。たとえろぼろだとしても、汚れた状態でも、そのままのわたしたちを神さまは受け入れてくださいます。

イエス様のご降誕を心から喜びましょう。そしてイエス様を、あなたの心に受け入れてください。それが神さまの思いなのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>